



§ 1 大豆畑での雑草防除について

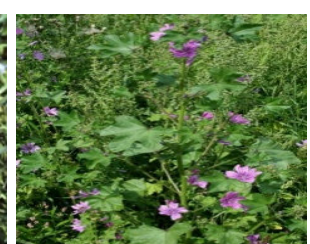
大豆畑では一般的に問題となる雑草(ヒエ類、メヒシバ、タデ類、シロザ、スベリヒユ)に加え、近年では外来雑草が深刻な問題になっています。今月は大豆畑における難防除雑草とその防除薬剤についてご紹介します。

〈なぜ？帰化アサガオ類の防除が難しいのか？〉

1. 春から秋まで長期にわたり発生し、開花、結実するから。
2. 種子が大きく、深い場所からも発芽し、土壌処理剤の効果が劣るから。
3. 条件次第で1株で数千～数万の種子を作るため。
4. 種子の寿命が長く、水田にしても何年もの発芽能力があるから。
5. つるが大豆に絡み、機械での防除が難しいため。
6. 株元や根から除草しないと残った節から再生するため。
7. 気温が高いほど生育旺盛で、1週間で1m近く成長するため。

〈主な外来種雑草〉

- I. 帰化アサガオ類(マルバルコウ):熱帯米国原産のつる性植物で、花は朱赤色で中心部が黄色で1ヶ所に数個つける。出芽は4-10月の長期にわたる。発見したら開花・結実前に防除し、種子の生産を防止する。いったん種子が圃場内に落ちると埋土種子を減少させることは難しいです。
- II. 「アレチウリ」:米国原産特定外来生物。5枚の花弁からなる緑白色の花をつける。出芽は長期にわたり、除草剤防除後の出芽も問題となる。生育速度が速く、大豆の被陰にも強く、壊滅的な被害をもたらすこともあります。
- III. 「ヒロハフウリンホオズキ」:熱帯米国原産一年生帰化植物。個体サイズが大きく、緑色のホオズキ状の果実がなり、1株4000-80000個の種子を作る。発生期間が長いので大豆播種時と生育期と体系的な防除を必要とします。
- IV. 「カロライナツクサ」:ツクサと形態が似ているが、花弁が小さく、色も淡いので識別は簡単です。茎の節からも発根し活着するので、抜き取った個体は放置しないで、圃場外で処分します。
- V. 「イヌホオズキ」:ナス化の一年生植物。果実が房状につき、黒い光沢のない、熟した果実がなる。大豆播種前から出芽し、中耕培土しても出芽する。大豆の被覆条件下では生育は著しく低下するので、欠株がないように栽培することで発生が抑制されます。
- VI. 「ニシキアオイ」:メキシコ原産のアオイ科一年草。開花、結実しながら成長し、水分が高い状態が維持されるので、汚損粒発生が懸念されるので、落葉期以降の残草も防除することが必要となる。



〈防除の基本重要点〉

- ・ 圃場に入れない、拵げない。圃場周辺の管理も徹底する。
- ・ 早期発見・早期防除:開花、結実前に防除して種子を作らせない。
- ・ 除草が必要な時期に、発生する草種に効果のある除草剤を上手に使用する。
- ・ 大豆がひ弱な生育初期段階を、雑草に負けないように管理する。

<雑草防除手段>

農薬名	適用雑草及び、使用時期	使用量/10a
タッチダウンIQ	一年生雑草(30cm以下) 耕起又は播種7日以前	250~500ml
サンフーロン	一年生雑草 播種10日以前	250~500ml
ザクサ液剤	一年生雑草 収穫前日まで(畦間処理)	300~500ml
バスタ液剤	一年生雑草 収穫28日前まで(畦間、株間処理)	300~500ml
エコトップP乳剤	一年生雑草 播種後出芽前(雑草発生前)	400~600ml
エコトップP細粒剤	一年生雑草 播種後出芽前(雑草発生前)	4~6kg
フィールドスターP乳剤	一年生雑草 播種後出芽前(雑草発生前)	75~120ml
アタックショット乳剤	一年生広葉雑草 本葉7葉期~開花前(雑草生育期)	30~50ml
大豆バサグラン液剤	一年生雑草(イネ科を除く) 畦間雑草茎葉散布 大豆の生育期(雑草生育初期~6葉期)	300~500ml
	一年生雑草(イネ科を除く) 雑草茎葉散布又は全面散布 大豆の2葉期から開花前(雑草の生育初期~6葉期)	100~150ml
セレクト乳剤	一年生イネ科雑草 イネ科雑草3~5葉期	35~50ml
	一年生イネ科雑草 イネ科雑草5~8葉期	50~75ml
ナブ乳剤	一年生イネ科雑草 イネ科雑草3~5葉期	150~200ml
	一年生イネ科雑草 イネ科雑草6~8葉期	200ml
	一年生イネ科雑草 イネ科雑草9~10葉期	250~300ml

§2 「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」のご紹介

2021年3月に岐阜県が中心となり、「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」が設立されました。この会では、花き業界の壁を越えた産学金官の多様な主体と連携することにより、岐阜県の花と緑に関する様々な情報発信や、消費者の購買意欲を高めるブランディングを進めたり、岐阜県における花きの生産・供給体制の強化、需要の拡大を図り、花き産業・花き文化の発展に資することを目的に設立されました。弊社としても、岐阜県の花き事業の推進の一助となればと企業会員として加盟しました。本年4月20日には本コンソーシアムの事務局となる「清流の国ぎふ花と緑の振興センター」が岐阜県農業技術センター内に開設され、記念講演会が北方町のホリモク生涯学習センターきらりで開催されました。



(<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/hotnews/220581.html>)

その会の活動の一環として、「ぎふ花き活用拡大推進事業」の「企業等花飾り支援事業」に弊社も参加し、この2月に弊社の本社に岐阜県産の花きを飾ることとなりました。岐阜市長良にある「BHMS(ハムス)」様の協力により、「ドラセナ」「シェフレラ」「オリーブ」の3種類の樹木を飾らせていただきました。本社へお立ち寄りの際には鑑賞していただければと思います。



また、本コンソーシアムでは、様々なイベント(高校生花いけバトル全国選抜大会等)を開催して岐阜県産における、花きのPRを行っています。ご興味ある方はイベントへの参加もよろしくお願ひします。